

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2017年9月24日（日）

主 題：「約束に生きる人は幸いです」

—恵みと忍耐—

テキスト：ヘブル人への手紙10章26～39節

はじめに

- ・ 前回、私たちは「近い関係」と「遠い関係」について学びました。生ける神との関係は、「近い関係」であります。それは、主人と奴隷（しもべ）のような主従関係を現わすのではなく、親子のような「近い関係」です。
- ・ 血を分けた親子関係は、他人との関係とは違い、密であります。イエスはヨハネ福音書で次のように言われました。
15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。
- ・ 私たちは、神の恵みによって神の子とされた者です。それはただ神の恵みです。それでは、神に選ばれ、神の子とされた者たちは、どのように生きるべきでしょうか。次の2点を学びました。
 1. 信仰の確信を持ち続けること
10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。
10:23 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。
 2. 互いに勧め合うこと
10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。
- ・ ここで「互いに勧め合って」とは、「切磋琢磨し合う」という意味です。約束の地に入る身分が与えられた私たちは、希望をもって歩む者となりました。ここまでが前回、学んだことでした。
- ・ そこで今日のテキストに入ります。ここで一つの問いがあります。クリスチャンは一度信仰を持ったら、二度と信仰から離れることはないのか、ということです。もうひとつは、一度信仰を持っても、信仰から離れ罰せられることはあるのか、という問いです。
- ・ 皆さんは、どう思われますか・・・？ このテーマは、昔から議論されてきました。救われたら、決して神の救いから落ちることはないと言主張する人々がいます。一方、救わ

れても、いかげんな生き方をしていると、救いから落ちてしまい、神の暴きを受けると主張する人々もいます。

- そして後者の人々は、今日のテキストの聖句を引用します。

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。

10:27 ただ、さばきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないのです。

- 一方、前者の主張をする人々は、ローマ人への手紙を引用します。

8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

これらの聖句は、救いから落ちて罪に定められることはないと言います。

そのどちらも、聖書を拠り所として自分の主張をしています。

- では皆さんは、どう思われますか。聖書にはそれぞれの主張を裏付ける聖書箇所があります。私たちはその両者をどのように位置付けし、関係付けるが大切です。今日、私たちは次の2点から考えましょう。

大切なポイント

1. 罪を犯し続けるなら

- 著者は当時のユダヤ人信仰者の中で、ドロップアウトした人々がいたことを語っています。

10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。

10:27 ただ、さばきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないのです。

- そして、モーセの律法を無視すれば、恐ろしい結果になると言いました。

10:28 だれでもモーセの律法を無視する者は、二、三の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死刑に処せられます。

ですから、モーセの律法とは、比較できないほどの大きな恵みをないがしろする罪は、もっと重い刑罰に価する、と言います。

1) 神に選ばれた人

- この聖句を読んで先ず、私たちが覚えなければならないことは、神によって救われたクリスチャンは、神が永遠の昔から救いの中に選んでくださった人であることです。神が選び救いに入れてくださったのですから、神のなさることに失敗があるはずはありません。

ん。一度、救って見たけれども、ものになりそうにでないので捨てるようなことはありません。

- ・だからと言って、私たち人間の側から言えば、自分は救いに選ばれているから大丈夫だなどと考えて、信仰生活に安住してはだめです。信仰生活に励むことは必要です。それは義務感からではありません。罪の赦しの福音のすばらしさが分かれば分かるほど、そうせざるにはいられなくなるのです。
- ・あんなに信仰に熱心だった人でも、信仰生活において怠けて、神を知ろうとする信仰（信頼）に欠けることもあるでしょう。あるいは私たち人間の側から見て、信仰を持っていたように見えたものが、神の目から見て信仰ではなかったことがあるかも知れません。
- ・すなわち、ここで言われている重要点は、私たちがいいかげんな生活をしていたら最後に裁かれるということです。私たちはそれを心に銘記して、甘えてしまわないことが大切です。そのことが厳しい言葉で戒められているのです。

- ・当時、信仰の怠慢から不信仰へ走り、不信仰から背教へと至った人たちがいたようでした。

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。

著者はそういう人たちへの警告として、この厳しい言葉を発したと思います。

- ・私たちは弱い者ですから、救われてからも罪を犯すことはあります。しかしここで言われていることは、罪を犯すことに恐れや悔い改めの情がなく、少しも良心の呵責を感じない人のことです。平気で罪を犯し続けるということです。そういう人のための罪のいけにえは、もうどこにもないということです。

2) なぜ、さばきが？

- ・次に覚えなければならぬことは、「なぜ」このようなことになるかです。それはイエス・キリストの十字架での犠牲は、途方もない出来事であったことを軽く受け止めているからです。神の御子の驚くべき犠牲が払われたにもかかわらず、それをいいかげんにするならば、「神の御子を踏みつける」ことになります。そして自分を聖くしてくださった「キリストの御血を無用のもの」とすることになるからです。そういうことをする人は、厳しいさばきを受けることは当然でしょう。
- ・それらはすべて、残念ながら不信仰（肉からくる）からきます。頭では理解しているのですが、自分（肉）がついて行きません。ヤコブが言っているように、「信仰と行い」のバランスに欠けてしまいます。救いと信仰を教理としてとらえ、それが生活に反映しません。教理が人を救うわけではありません。
- ・そこで大切なことは、神はその弱い私をご存じであられ、助け手を備えてくださっていることです。それが神の御霊である聖霊です。御霊の助けによって、私たちは生きることができます。

3) 御霊は真の助け主

- ・御霊の神をあなたなら、どんなに重い刑罰に価するかは言うまでもありません。
12:31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒瀆は赦されません。
12:32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。
- ・私たちは弱いものですから、神の御子の大きな犠牲によって救われても、ヨチヨチ歩きです。すぐに躓き、罪を犯してしまいがちです。
そのことをご存じである神は、私たちに御霊を送り、私たちが罪を犯さないように助けてくださいます。御霊とは聖霊です。聖霊は助け主です。
ヨハネ福音書
4:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。
- ・私たちが聖書を読む時、神は聖書を通して語りかけてくださいます。
私たちが祈る時、神はみ心を示してくださいます。
私たちが途方にくれ道に迷う時も、神は御霊を通して教えてくださいます。
- ・弱い私たちは、いつも御霊の助けを求めるものではありません。自分で選び安易は道に進もうとします。生まれながらの性質は、いつも安易な道を求めてしまいます。ですから、神のみことばを求めること、そして御霊の助けによって歩むことは大切です。
- ・そこで注意しなければならないことは、人をさばくことです。
10:30 私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする。」、また、「主がその民をさばかれる。」と言われる方を知っています。
10:31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。
- ・私たちには人を裁く資格はありません。著者は厳しい言葉で警告しました。それは神に選ばれた人が、信仰から落ちることがないためです。そこで弱い私たちにとって大切なことがあります。それが次のポイントです。

2. 神への信仰を持ち続ける

- ・神とともに歩む信仰生活で、神に背を向けない生活を送るため、ここで大切なことは二つあります。

1) いつも神の恵みを覚えること

神は、信じる者に祝福の道を備えておられます。しかし多くの場合、祝福の道はむしろ困難を通して行くところにあります。この手紙の読者たちは、激しい迫害の中で、信仰を貫いてきた人々が多かったようです。

10:32 あなたがたは、光に照らされて後、苦難に会いながら激しい戦いに耐えた初めのころを、思い起こしなさい。

10:33 人々の目の前で、そしりと苦しみとを受けた者もあれば、このようなめにあった

人々の仲間になった者もありました。

10:34 あなたがたは、捕えられている人々を思いやり、また、もっとすぐれた、いつまでも残る財産を持っていることを知っていたので、自分の財産が奪われても、喜んで忍びました。

- ・彼らが受けた苦難は、大変なものであったと思います。きっと、この手紙の読者たちには、すぐ思い出すことができたと思います。
- ・私たちも、それぞれ異なった苦難があります。職場において、学校において、また家庭において、クリスチャンであるという理由から侮辱されたり、苦しめられたりすることがあります。自分の宝の方が、主イエスよりも大切だと思う誘惑に遭うこともあります。自分の社会的地位や名声の方が、永遠の宝である天国よりも大切だと誘惑にさられることもあります。
- ・そのような時、私たちは彼らと同じように天の宝に目を注ぎ、この世のものが失われても平気でいられる信仰を持っているのでしょうか。そのことが問われているのです。そういう生き方を自分はしているか、と問われているのです。
- ・彼らはこの世のものよりも天に目を注いでいました。なぜなら真の所有物が天にあることを思い出し、苦難を乗り越えることができたのでした。

10:35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。

もうひとつ大切なことがあります。

2) 忍耐をもって生きること

10:36 あなたがたが神のみこころを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

- ・私たちには忍耐が必要です。「忍耐」というと、日本語では何かじっと耐え忍ぶというニュアンスしかありませんが、ここで言われているのは、そうではありません。「忍耐」(言語：hypomone:ヒポモネ)とは、もともと「自分の立っている所に、しっかり踏みと留まること」、「一つの所にしっかりと立ち続ける」という意味です。
- ・悪魔の力は、私たちをこの世の流れと共に押し流そうとします。流れに逆らって立つより、押し流されることの方がはるかに楽です。しかしそれでは、最後に滅びなのですから、流されてはいけません。
- ・私たちの社会でも濁流が来て、押し流されそうになることがあります。どうればよいでしょうか？ ⇒キリストの十字架の御血にあります。十字架の御血は、流されないように、それに耐える力を与えてくださいます。
- ・私たちは天の御国を仰ぎ、御国へ行くという確信を持ち続けることです。そこに立ち続けることができる秘訣があります。それは自分の力ではできません。忍耐を持つイエスへの信仰によって出来るのです。それがここで言う「忍耐」です。著者はさらに次のように言いました。

・10:37 「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。

10:38 わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのところは彼

を喜ばない。」

- ・「恐れ退く」とは、信仰によって歩まない人です。信仰を持つとは、みことばに教えられ神の約束を信じて、前に進みます。アブラハムは、神の命令と約束を信じ、75歳の時、信仰を持って新しい人生に出発しました。そこで大きな祝福を受けました。
- ・信仰はだれにとっても、未知の世界です。しかし神が約束し、保証してくださっているところに確かさがあります。安心感があります。ひとり子をも犠牲にするほどの神の保証です。信仰は神を信頼することです。

{例 話}

- ・ある中学校で、先生が3人の生徒に難しい問題を与えました。先生は「これを解くのは難しいが、必ず答えがあるからやってみなさい。」と言いました。
 - ① 一人が何度も挑戦しましたが、「絶対解けない！」と言って、結局あきらめました。
 - ② 二人目の生徒も回答が出せないでいましたが、ニコニコしていました。少しも困った様子もなく、「答えが出せるのは分かっています。だれかが答えを出したのを見たことがあるので」と言いました。
 - ③ 三人目の生徒は、がんばって解こうとしました。彼は頭痛がして、頭の中が混乱していましたが、努力を続けていました。そして、ためらうことなくこう言いました。「僕は必ず答えが見つかるかと信じているよ。だって先生が言ったからね。」
- ・皆さん！ これが信仰です。私たちは見えるものではなく、神の約束に信頼を置くことです。神が言われたみことばに信頼を置くことです。

- ・信仰によって生きようとする者に対して、神は豊かな祝福を与えてくださいます。まずキリスト・イエスによる罪の赦しです。次に、この世の旅路においても、迫害に耐える力を与えてくださいます。
- ・主イエス・キリストがもう一度来られる時に、この世界は終わりとなります。私たちクリスチャンの救いは完成し、永遠に御国の民として生きることができま。イエスは、まもなく来られます。これが私たちの望みです。
- ・神が約束してくださった信仰に生きる人は幸いです。なぜなら激しい流れの中に置かれても、「忍耐」をもっているからです。神は真実なお方です。ご自分が約束されたことを、決して破られることはありません。ですから、著者は言いました。

10:39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。
ハレルヤ！

ま と め

主 題：「約束に生きる人は幸いです」

—恵みと忍耐—

- ・今日、私たちは主のみ声を聞きました。人生の嵐の中で、時には流れそうになることがあります。信仰が弱くなり、自分は天の御国に入る資格はあるのだろうか、と迷う

ことがあるかも知れません。苦しみがあっても再臨信仰を持つ人は幸いです。聖書は次のように語ります。ローマ人への手紙

8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

・では、私たちはどう生きるべきでしょうか？

1. いつも神の恵みを覚えること
2. 忍耐をもって生きること

* God bless you!